

臨床研修カリキュラム

養成コース [膠原病・リウマチ・アレルギー内科]

全体目標:リウマチ・膠原病とその類縁疾患を幅広く診療し、内科診療の基礎を身につける。

個別目標:

	1カ月、1.5カ月	2ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	関節、皮膚所見などを適切に診察することができ、その所見を正しく表現できる。	外来初診の患者について、上級医の監督のもとで予診をとり検査計画を立案することができる(希望者)。
2	血液検査を適切にコーディネートして実施し、その結果を正しく解釈できる。	入院患者に対して関節超音波検査を実施し、所見について正しく解釈できる(希望者)。
3	関節X線の読影ができ、異常とその解釈を述べることができる。	
4	関節 MRI 検査や関節超音波検査の適応を理解し、異常とその解釈を述べることができる。	
5	中心静脈穿刺、胸腔穿刺、腰椎穿刺など穿刺手技の適応を判断し、手技の実施、結果の解釈ができる。	
6	関節リウマチに関して、ガイドラインに沿った診断、および治療が理解できる。	
7	全身性エリテマトーデスの診断ができ、治療方針が理解できる。	
8	強皮症の診断ができ、治療方針とその管理を理解できる。	
9	不明熱に関して、十分な検査計画を構築し、適切に診療することができる。	
10	副腎皮質ステロイドの副作用を十分に理解し、適切に使用することができる。	
11	免疫抑制薬や生物学的製剤の適応を理解し、その必要性和副作用を説明することができる。	
12	有用な文献を検索し、診断・治療に役立てることができる。	
13	特定疾患治療研究事業など医療費助成に関する制度を理解し、正しく利用することができる。	
14	上級医やコメディカルと連携をとり、退院後の療養計画を適切にコーディネートできる。	
15	上級医・指導医の監督のもと病状説明が適切にできる。	

方略:

受け持ち医として病棟で5-8人程度の患者を担当し、上級医・指導医の監督・指導のもと主体的に診療を行う。

- ・教授回診…週 1 回(火)。受け持ち患者に関するプレゼンテーションを行う。
特に新入院患者に関しては、これまでの臨床経過を含めて詳細にプレゼンテーションする。
- ・准教授回診…週 1 回(木)。受け持ち患者に関するプレゼンテーションを行う。
- ・講師回診…週 1 回(月)。受け持ち患者に関するプレゼンテーションを行う。
- ・関節画像診断(超音波, MRI)…これらの検査は随時行われており、可能な範囲で参加して学習する。
- ・外来化学療法…これらの治療は随時行われており、可能な範囲で参加して学習する。
- ・学会・研究会…関連する研究会に積極的に参加し、できる限り研究会や学会の地方会などで症例報告を行う。

評価:

- ・EPOC II による評価を行う
- ・修了時にアンケート形式の評価表(研修医の自己評価、および当科の指導体制等に関する評価を記載)を提出。
評価表は当科のスタッフ・シニア以上のレジデントが共有する。